

34 看護部

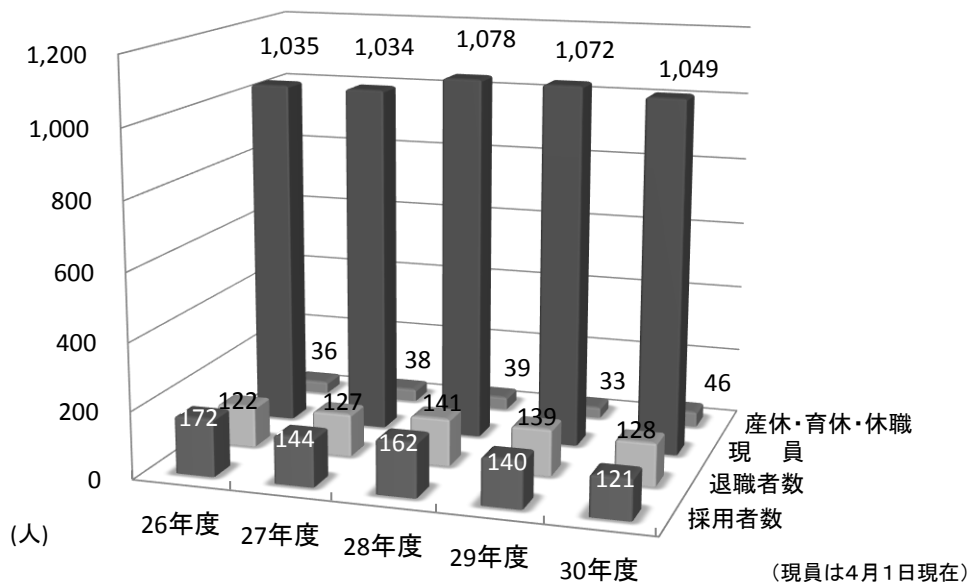
看護部は“SWEET”をモットーに、看護職員一人ひとりが自己の役割と責任を果たすべく看護業務に取り組んでいる。看護職員の確保・定着に努め、退職率は12.2%、うち新採用者は5%の低値である(図34-1, 34-2)。重症度、医療・看護必要度において、A項目は急性期医療・処置(ME機器の装着、管理、モニタリング等)を、B項目は患者の生活支援状況(動作制限や認知度による介助等)を、C項目は手術等の医学的状況を評価している(図34-3, 34-4)。患者の観察度、自由度(図34-5, 34-6)からは重症患者が年々増加してきているものの、依然として全病棟で常にB項目の点数が高く、日常生活援助に多くの看護力を費やしている状況である。特定機能病院の7対1入院基本料の施設基準である「重症度、医療・看護必要度Ⅰ」の判定基準28%以上を維持するためには、医療処置を必要とする患者の増加への取り組み、また、生活支援が主たる患者の早期退院(在宅・転院)が必須となる。入院前、入院時から退院支援に取り組み、当院での医療処置が終了した患者がスムーズに退院できるよう、医師をはじめメディカルスタッフとの連携を強化していく。さらに在院日数の短縮により、治療処置・ケアニーズの高い患者が外来へとシフトしていることから、在宅療養指導や看護外来の充実を図り、患者支援強化に向けた取り組みを継続している(表34-7)。今後も入院前から退院に向け、積極的に介入し、継続看護の更なる質向上を目指す。

“We set SWEET” 私たちが大事にしたい5つのこと

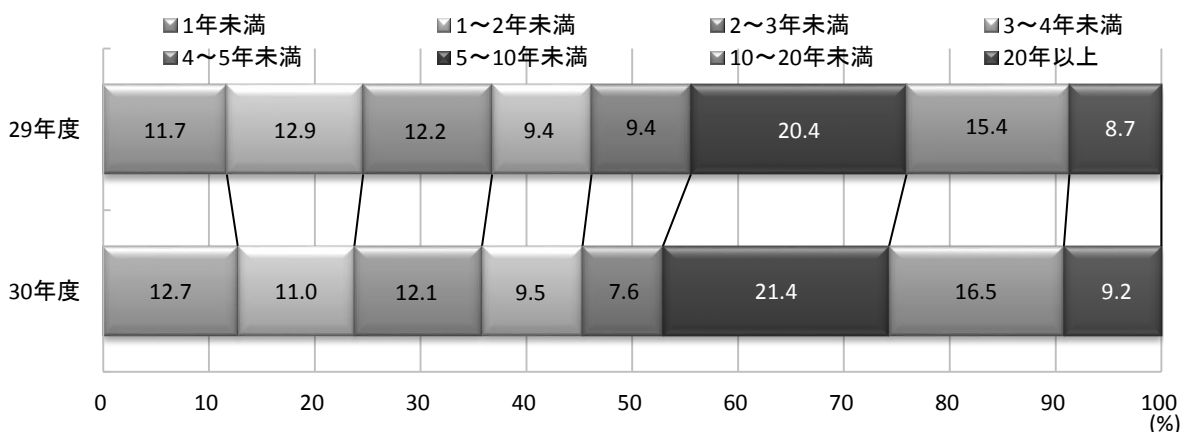
S(sincerity)：誠実な行動 W(warm)：あたたかい対応 E(evidence)：根拠ある実践



34-1 看護師数の年度別推移



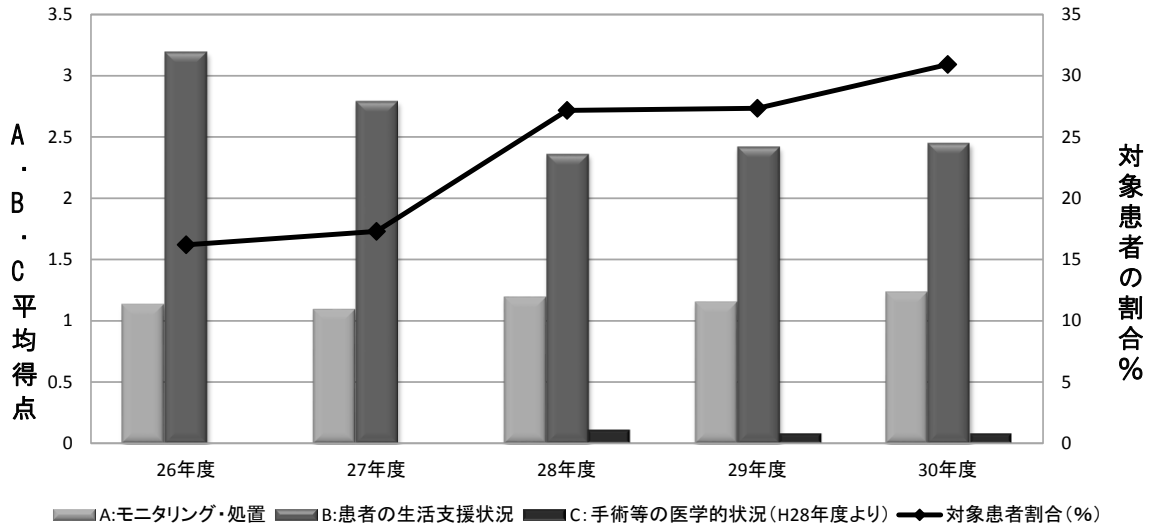
34-2 看護師当院在職年数別の年度別構成比率(4月1日現在)



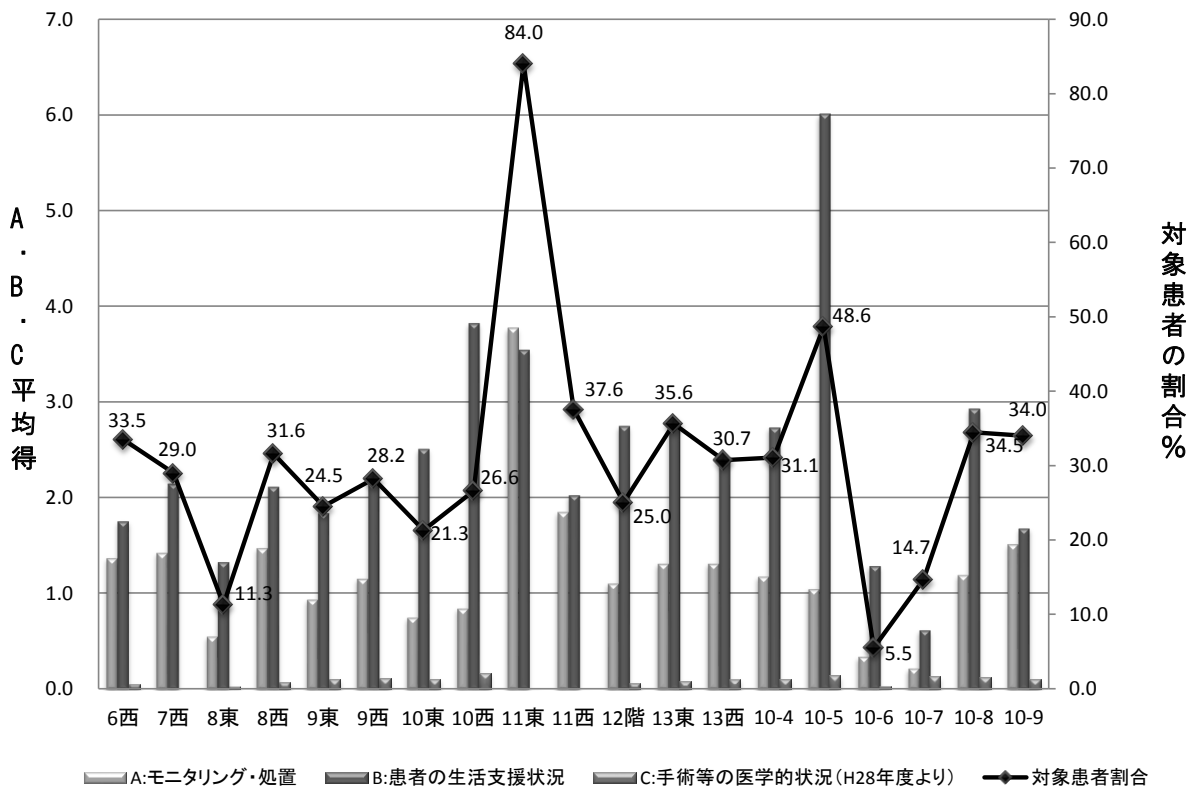
34-3 7対1対象病棟における重症度、医療・看護必要度平均得点の年度推移

対象患者 ・ A得点2点以上かつB得点3点以上
 ・ B項目「診療・療養上の指示が通じる」又は「危険行動」に該当する患者であって、A得点が1点以上かつB得点が3点以上
 ・ A得点3点以上
 ・ C得点1点以上

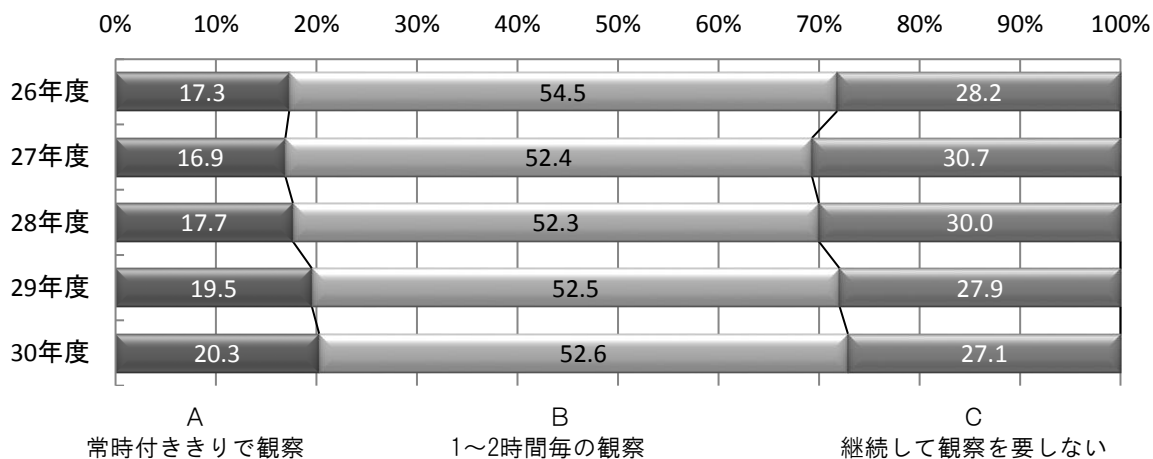
※28年度診療報酬改定により項目の変更、C項目の追加あり。
 ※30年度診療報酬改定により項目の変更、対象患者の基準の変更あり。



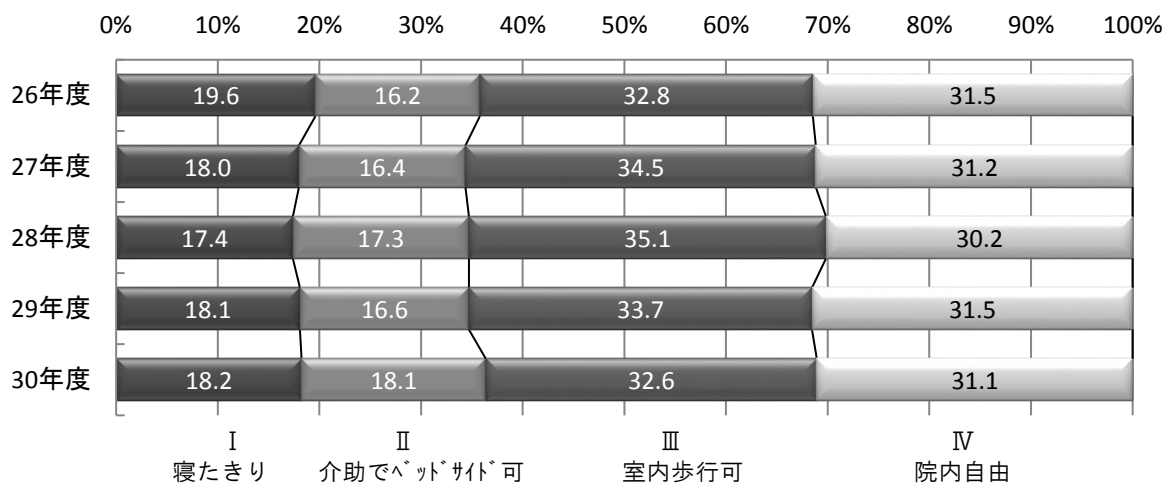
34-4 30年度 7対1対象病棟別重症度、医療・看護必要度 項目別平均得点および対象患者割合



34-5 看護観察度別患者数の年度別構成比率（全病棟）



34-6 生活の自由度別患者数の年度別構成比率（全病棟）



34-7 年度別外来看護活動状況

(件)

区分		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
療養指導	在宅療養				692	2,337
	自己注射	516	678	803	1,071	1,128
	自己腹膜灌流	23	5	11	3	9
	酸素療法	46	64	155	147	110
	人工呼吸				13	96
	中心静脈栄養	8	4	5	16	51
	成分栄養経管栄養	26	19	14	454	203
	自己導尿	64	43	60	80	51
	糖尿病透析予防				302	144
	がん化学療法				33	75
看護外来	造血幹細胞移植看護				96	225
	禁煙サポート				1	1
	フットケア	366	521	497	595	715
	糖尿病看護				454	464
	慢性病看護				257	228
	こども看護				13	51
	がん看護				589	944
	周術期看護				124	132
	リンパ浮腫	468	141	116	219	163
	ストマケア	1,082	1,127	955	1,125	1,030
	母乳外来	100	152	138	164	92
マタニティヨガ	76	92	78	82	38	
合計	2,944	3,029	3,056	7,397	8,287	

※29年度より表記方法変更